

令和 7 年 7 月 2 日

令和 6 年度 特別の教育課程の実施状況等について

宮城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
気仙沼市立鹿折小学校	気仙沼市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
気仙沼市立 鹿折小学校	http://www.kesennuma.ed.jp/shishiori-syou/wysiwyg/file/download/1/5300

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
気仙沼市立 鹿折小学校	http://www.kesennuma.ed.jp/shishiori-syou/wysiwyg/file/download/1/5282	http://www.kesennuma.ed.jp/shishiori-syou/wysiwyg/file/download/1/5282

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ☒ 計画通り実施できている
- ☐ 一部、計画通り実施できていない
- ☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ☒ 実施している
- ☐ 実施していない

<特記事項>

年に 1 度 PTA 総会の際に、教育課程特例校について校長から保護者へ説明する時間を設けている。また、保護者が「海と生きる探究活動」の授業を参観したり、地域の方から児童の発表の内容について意見をいただいたりすることで、本校独自の教育課程による取組を広めている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

地域の環境、産業、伝統、文化、暮らしなどを関連付け、被災地という特性を踏まえた探究的な学習を行う新たな領域「海と生きる探究活動」の時間を新設した。「海と生きる探究活動」は、小学校3年生から小学校6年生において、総合的な学習の時間と国語科、社会科、理科、家庭科の一部を組み替えて教育課程を編成したものである。「海と生きる探究活動」においては、生産者や事業者、地域の実践者等との交流や学び等の機会を積極的に活用し、海や海とつながる川や山などの環境、産業、暮らし、伝統・文化などを関連付け、科学的及び社会的な分野において生きて働く「知識及び技能」、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」を育成するとともに、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」を図ってきている。

5年間の実践を経た成果として、児童は気仙沼や地元鹿折地区の環境や文化に興味・関心をもって意欲的に体験活動に取り組み、自分の課題を解決しようとする姿が見られるようになった。これは、児童の興味・関心から学習を展開できるよう、年度ごとに修正を加え、よりよいものにしてきたことが要因として挙げられる。一方で、課題としては他者と協働して学習を進めたり、地域の方から直接話を聞き、自分の考えを深めたりする経験が少ないことが挙げられる。また、探究学習の進め方に学年間の差が生じることもあり、教職員が学習の進め方を共通理解して取り組むことも課題として挙げられる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性など」の育成を目指し、全教科で指導改善に取り組んでいる。「海と生きる探究活動」では教科内容を関連付けたり、融合したりすることで、他者との協働など、問題解決に向かうための探究力を育てている。探究活動で得た力は教科学習にも往還的に生かされる。自分の課題を設定し、答えのない問いに向き合いながら、個人探究・グループ探究の中で収集した情報を比較・分析・整理することで、児童の主体性・探究力・協働性を伸ばしている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・より一層、教科との関連性を重視し、往還的な学習を行うことで、確かな学力の育成を図る。
- ・探究的な学習について、校内で年度初めに教員間で共通理解を図り、修正しながら実践を進めているところである。また、気仙沼市が目指す人材が備えるべき資質として「海洋リテラシーfor 気仙沼」の育成を意識して学習活動を展開する。
- ・気仙沼市の海洋教育における教育課程特例校として、『海と生きる』を学ぶガイドブックを積極的に活用し、「海と生きる探究活動」を中心に教科横断による探究的な学習をより効果的かつさらなる児童主体の学びに導いていく。